

教育コロナ会議

テーマ「公立中学高校の力強い取り組みから学ぶ組織マネジメント」

京都府南丹市立園部中学校
校長 國府常芳

1 3月、4月期の学校の取り組み（概要） **資料1 臨時休校中の園部中学校の取組**

2月27日 政府の新型コロナウイルス対策本部会議

全国全ての小・中学校、高等学校及び特別支援学校における臨時休校の要請

(1) 臨時企画会議 2/28 or 3/2 → 【南丹市 休校期間3月3日～4月12日】

○校長指示 ・全校集会開催と全校合唱の実施 ・家庭学習課題の準備

(2) 卒業式と修了式、離任式

○卒業式 在校生不参加

○離任式 旧1、2年出席と卒業生出席の2回実施

※家庭学習課題については登校日（修了式、離任式）

※1日2回（午前・午後）の健康観察 1日2回のパトロール

(3) 登校日が設定できない期間 【南丹市 休校期間4月13日～5月6日】

○家庭訪問の実施（4月20日～） 参考：園部中学校家庭訪問実施方法

ねらい

・保護者と簡単な会話 ・所在地の確認（危機管理）

※前日に園部中学校家庭訪問実施方法を保護者に電話説明

(4) 休校期間延長による園部中学校の対応

○校長メッセージと生徒指導主任メッセージの発信（YouTube）

○家庭訪問の実施（5月7日・8日） 学年の教師全員で実施（担任と副担任）

ねらい ・生徒と簡単な会話を行う（健康観察や悩みの相談等）

・DVやネグレクト等の影響がないかを確認

資料2 家庭訪問を終えた担任の感想

○各教員からのメッセージを映像で生徒に届けるプロジェクト

・家庭学習課題の解き方やポイントについて動画解説

・簡単な授業を動画配信

※ホームページで保護者と生徒のみが視聴できる環境をつくる

2 校長として学校をどのように組織的にマネジメントしてきたか **資料3 学校分析**

(1) 学校体制での取組

○方針の徹底 ～Zoom会議による職員会議（2日間サイクル）

・2交代制在宅勤務

Aグループ（校長・教務主任）

Bグループ（教頭・生指主任・3学年主任）

・企画会議をZoomにより実施 2日間サイクルの1日目の朝（8:30～）

・全職員への職員会議要項(PDF)のLINEによる前日配信 学年LINEの活用

○在宅勤務期間中のシステム化

①全職員への職員会議要項の前日配信

【A：在宅勤務(1日目)】

- ②企画会議(8:30～) Zoom会議 校長と教務主任が参加 [写真1]
 ③職員会議 Zoomで校長指示 教頭司会 [写真2]

【B：在宅勤務(2日目)】

- ④職員会議 校長が指示 司会 教務主任
 Zoom会議 教頭と生指主任、3学年主任が参加 [写真3]

※組織マネジメントの視点

入学式や卒業式、始業式、終業式、修了式での式辞については、3日前に全教職員に学年LINEを活用して配信しておく

校長の式辞内容を事前に理解することで、生指主任や各学年主任、各担任が繋がる話ができるように心がけている。

学校便り(毎月校長が作成)→各学年通信→各学級通信 内容のつながり
 ※教職員の意思疎通が図れていることやベクトルが同じ方向を向いていることで、生徒保護者に安心感を与えたいと考えている

(2) 全教職員との連携体制(SNSを活用)

○LINEの活用(企画—各学年)

○校内LANの活用

校長フォルダーの活用

- ・職員会議での指示はパワーポイント(いつでも見られる環境)
- ・校長への意見(記名でも無記名でも可)※セクハラやパワハラ等の防止
- ・報告連絡相談の窓口 ※学校としての考えを伝える(スピード感)

(3) 学校教育の見える化(ホームページの活用)

- ・定期的な更新(3回/週)

3 子供たちとの繋がりや学習の推進をどのように図ってきたか

(1) 学びに向かう姿勢

資料4 園部中学校教育グランドデザイン

○地域と共にある中学校(コミュニティ・スクールを今年度より導入)

資料5 園部中学校コミュニティ・スクール

※熟議による地域と協働した事業 地域に包み込まれているという感覚を持たせる

- ・防災教室
- ・地域協同フォーラム
- ・修学旅行の取組

○学校体制での取組

- ・校長の取組(校長講話、校長面談) 資料6 校長面談
- ・学校行事にキャリア教育の視点(大学訪問、ようこそ先輩)
- ・みんな19時間の取組 資料7 みんな19時間

(2) 授業改善に向けた取組

○研究指定校を軸とした積極的な授業改善

令和2年度「主体的・対話的で深い学びの研究指定校」研究発表会
 日時 11月20日(金)

4 コロナ禍以前の学校の取り組みとの関連

別紙資料 ファイル学習取組(家庭学習ファイル)

おわりに